

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 21 日現在

機関番号：40124
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：平成 20 年度 ～平成 24 年度
 課題番号：20520149
 研究課題名（和文） 注釈・小津安二郎全作品固有名詞

研究課題名（英文） Annotations: All proper nouns of Ozu Yasujiro' s films
 研究代表者
 中澤千磨夫 (NAKAZAWA CHIMAO)
 北海道武蔵女子短期大学・教養学科・教授
 研究者番号：10198062

研究成果の概要（和文）：日本が世界に誇る小津安二郎監督（1903-1963）の映画テキスト 53 作品から 2,986 項目の固有名詞（普通名詞も含む）を掲出し、注釈を付した。本研究の成果は、小津安二郎研究の基盤を成し、ここから多くの新研究が生まれることになる。

数次にわたり中国で小津安二郎戦跡調査を行った。特に南京と修水河の調査で新事実の確認と成果を上げた。

研究成果の概要（英文）：Ozu Yasujiro, Japanese movie director (1903-1963) wins worldwide renown. 2,986 proper nouns(including common nouns) were chosen from 53 Ozu Yasujiro's films, and were added brief explanations. This study surely will be the basis of Ozu's studies. Several investigations of Ozu's battlefields were conducted in China. A couple of investigations are worthy of special mention, particularly in Nanking and along Shusui River.

交付決定額

	直接経費	間接経費	合計
20 年度	800,000	240,000	1,040,000
21 年度	600,000	180,000	780,000
22 年度	600,000	180,000	780,000
23 年度	600,000	180,000	780,000
24 年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：小津安二郎、小津、映画、日本映画、映画史、映像論、日本文化、大衆芸術

1. 研究開始当初の背景

- (1) 映画テキストの本格的な分析は、1980年代半ば以降のビデオの平準化によりようやく始まる。ビデオの平準化は時間芸術という束縛から解放

したからである。

とはいえ、映画テキストを活字テキストと同様に分析する手法はいまだ確立されておらず、手探りの状況にある。なぜなら、映画評論家たちの仕事のそれなりに厚い蓄積があり、それら往年の手法がいまなお繰り返し用い

られているからである。

ここで「往年の手法」というのは、例えば新作映画を業務試写で先行的・特権的に観て映画評を書くような場合が典型である。ここで要求されるのは、分析力以前に映画という時間芸術の制約に縛られながら、ただ一度の読解をいかに表現するか（あるいは再現するか）という力なのである。それ自体重要なものであることに疑いは挟まない。しかし、時間芸術たる映画といいながら、再読・精読を経ることなく深化したテキスト分析に達することはありえない。その意味で、日本映画の映像分析は、ようやく印象批評の段階を抜け出ようかという地点に達したばかりのところである。ビデオの平準化によって、映画が活字作品と同じように分析しうるといふ土壌が整ってきたのである。正確に言えば、その土壌に根ざした分析者がようやく増えてきたのである。

- (2) 日本映画でもっとも分析者の多いと思われる作家のひとり小津安二郎(1903-1963)においても(1)の状況は変わらない。

研究代表者は映画テキストを活字テキストと同様に分析するという試みを永年にわたり行ってきた。平成14年度から17年度にかけて科研費の助成を受けた「小津安二郎研究」(研究課題番号10198062)もその一例であり、その成果として図書『小津安二郎・生きる哀しみ』(2003、PHP研究所)をはじめとして多数の雑誌論文(「痙攣するデジャ・ヴューービデオで読む小津安二郎ー」(1997~2007、『北方文藝』、『北海道武蔵女子短期大学紀要』)など、短評を発表してきた。

その過程で、より細密な分析の必要を痛感し、小津安二郎テキストの固有名詞を中心とする注釈を作成しようとするに至った。文学作品においては、注釈作業はまとまった形とならぬにせよ、分析の前提として必然の行為なのである。それがすっぽりと抜け落ちているのが、日本映画分析の現状なのである。

2. 研究の目的

- (1) 小津安二郎映画テキスト(劇映画 53

本、記録映画1本)に登場する固有名詞を可能な限り抽出し、付注することによって、小津安二郎テキスト読解に必要な基礎的なデータを提供する。

- (2) 前項により、小津安二郎テキストの各作品論、ひいては作家論の飛躍的深化に寄与する。

3. 研究の方法

- (1) これまで日本国内で市販されたDVD、VHS、LD、脚本などをテキストに、小津映画に表出された細部の事物にまで可能な限りこだわり、固有名詞(普通名詞も含む)を抽出する。(主に使用したのは、小津安二郎生誕100年の2003年に松竹から発売されたDVDボックスである。このデジタルリマスター版は、デジタルリマスターを行ったがゆえの問題点もあるのだが、ことテキストクリティークの細部に及ぶのでここでの詳述は避ける。なお、テキストクリティークにつき言及すれば、本研究は文献比較が主眼ではないので、複数テキストが存在する場合、それらのテキストを加算する方向で採録を行った。また、ほかに東京国立近代美術館フィルムセンターなどのスクリーンで観た作品も一部テキストとして使用した)

- (2) 抽出した地名・人名等に簡略な注釈を付し、作品読解の基礎とする。

- (3) 重要と思われる固有名詞等に関しては、追認のため可能な限り臨地調査を行う。臨地調査は、日本国内はもとより外国にも及ぶ。外国としては中華人民共和国、シンガポール、台湾、ミャンマー、ロシアなどを予定していたが、今回調査し得たのは中華人民共和国のみ。それも上海、北京、南京、南昌、九江、瀋陽、大連、旅順など一部に限られた。

4. 研究成果

- (1) 本研究開始前の同テーマ先行成果である、研究代表者による「痙攣するデジャ・ヴュー——ビデオで読む小津安二郎——⑩小津安二郎作品地名・人名稿（戦後モノクロ映画編）」（『北海道武蔵女子短期大学紀要』第39号、2007年、pp.1-77）を含め、小津安二郎映画テキスト53作品から、計2,986項目を掲出し、注釈を付した。
- このような集中的な試みは、小津安二郎研究はもとより、広く日本映画研究においても初めてのことである。
- (2) (1)の成果により、小津安二郎テキスト作品論・作家論の基礎資料を提供した。小津安二郎固有名詞注釈大成とあってよい。
- 単に固有名詞を抽出するといっても、映像細部の凝視が必要となり、これまでの研究で見逃されてきた事物を多数掲出している。具体例については(5)で述べる。
- (3) 1938年1月12日、小津安二郎と山中貞雄が中国大陸で再会し、それが最後の機会となった場所が、定説の南京郊外句容（句容は南京の隣の市）ではなく、南京市湯山鎮（当時の多くの日本側資料では湯水鎮）の現・南京砲兵学院であることを、研究代表者は「小津安二郎・山中貞雄の南京へ行く（メモランダム）」（『プレーメン館』第3号、2005、pp.28-47）ほかで明らかにした。今回、その再確認を行った。
- この新発見は科研費助成の「小津安二郎研究」（研究課題番号10198062）の成果の一部であるが、本研究の成果である雑誌論文⑤に結実した2012年3月24日から4月3日にかけての中華人民共和国調査（藤田明全国小津安二郎ネットワーク会長（元・高田短期大学教授）、稲森信昭三重県日本中国友好協会久居一志支部理事（元・上海交通大学・上海外国語大学講師）と研究代表者の3人で中国における小津安二郎足跡調査のチームを組んだ）のうち、4月1日の南京調査で再確認しえたもの。
- 再確認とはいいいながら、小津安二郎年譜・山中貞雄年譜を訂正する新発見であることを特記する。
- (4) 小津安二郎が従軍した南昌作戦の修水河渡河地点調査など、数次にわたり中国での戦跡調査を行った。
- 特記したいのは、(3)にも記述した雑誌論文⑤などで報告した修水河調査である。2012年3月26日、空路上海から南昌に入り、専用車で九江に移動した。以後3月31日にかけて、南昌作戦をなぞる行路で九江、廬山、修水河、永修、南昌と辿った。3月30日、修水河岸を永修から虬津まで丹念に調査。この間に現在も橋はなく、また河岸に出られる道も限られている。国道を含め、道路状況は極めて悪く、調査には多くの困難を伴った。
- 1939年2月20日の修水河渡河作戦の場所は残念ながら特定するに至らなかったが、状況の確認は十分に行い得た。渡河作戦時とひと月ほどずれてはいるものの、小津が記している満開の菜の花も確認した。修水河の臨地調査は小津安二郎研究において初めてのことである。
- (5) (3)に記した2012年3月、4月の調査、及び2012年10月、11月の上海調査で上海交通大学日本語学部長呉保華副教授、同大学国際教育学院陸徳陽副教授、同大学外国語学院何涪嘉副教授、上海魯迅記念館故居管理部主任瞿斌氏らの親しい助力・知見を受けた。
- 研究代表者らの今後の小津研究、特に中国大陸での足跡調査の礎となることが確実である。
- なお、研究代表者は、2013年10月16日、上海交通大学日本語学部において、小津安二郎をテーマとする講演を行うべく、同大学から招待されている。
- (6) 2,986項目掲出の意義については(1)(2)に述べた通りだが、新発見といってもよい項目につき、簡略なコメントを付し一部列举する。
- 「ミゾグチ理髪所」（『学生ロマンス若き日』、『大学は出たけれど』（1929年））。溝口健二との関連を指摘。
- 「文藝春秋社」（『朗らかに歩め』（1930年）。ロケ地を推定。
- 「マルクス」（『淑女と髯』（1931年））。男爵家の肖像画。小津安二郎の危険な挑発。
- 「爆弾三勇士」（『生れてはみたけれど』（1932年））。『東京暮色』（1957年）

の「青松寺」とともに、小津の戦争を考える基礎。

「九月十八日事件」、「ホラ信」(『青春夢いまいづこ』(1932年))。小津の社会観の幅。

「根室」(『出来ごころ』(1933年))。戦前の北海道観。

「竈主神」(『一人息子』(1936年))。戦前の生活風景。

「台湾」(『淑女は何を忘れたか』(1937年))。小津の植民地観。皇民化運動観。

「ヒットラー」(『戸田家の兄妹』(1941年))。小津のドイツ観。

「南山壽」(『父ありき』(1942年))。細部に至る心憎いまでの演出。

「久造」(『長屋紳士録』(1947年))。日本庶民の常識の変化。

「シナガワ」(『風の中の牝鷄』(1948年))。ペニシリン革命。

「杜若」(『晩春』(1949年))。小津の教養が物語のプロットを規定。

「山極勝三郎」(『宗方姉妹』(1950年))。幻のノーベル賞。

「善通寺」(『麦秋』(1951年))。戦争の傷。

「戦友の遺骨を抱いて」(『お茶漬の味』(1952年))。宇治山田中学校。

「高峰秀子」(『東京物語』(1953年))。小津の粋な遊び。

「すし元」(『早春』(1956年))。茅ヶ崎、そして茅ヶ崎館。

「錦之助」(『東京暮色』(1957年))。物語が識を成す。

「佐々木」(『彼岸花』(1958年)、『小早川家の秋』(1961年))。小津の京都。

「森永ドライミルク」(『お早よう』(1959年))。社会を皮肉る。

「ザ・ピーナッツ」(『浮草』(1959年))。色づかいと戦争。

「梅原龍三郎」(『秋日和』(1960年))。とにかく本物でなければ。

「星由里子」(『秋刀魚の味』(1962年))。他社の女優をこんなところに。

- (7) (5)の後半で列举した固有名詞はわずかに26項目。2,986項目中の26項目であるから、全体のわずか0.87パーセントに過ぎない。この26項目からでもそれぞれ新見のある作品論が提出できるのである。

本研究が掲出した2,986項目の固有名詞は、小津安二郎研究の宝の山であると自負している。研究代表者の発見であったとしても、ここから小津安二郎論を自由に紡いでかまわないこと

いうまでもない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 中澤千磨夫、痙攣するデジャ・ヴュ——ビデオで読む小津安二郎——⑫小津安二郎作品地名・人名稿(カラー映画編Ⅰ)、北海道武蔵女子短期大学紀要、査読無、第41号、2009、pp.1-53
- ② 中澤千磨夫、痙攣するデジャ・ヴュ——ビデオで読む小津安二郎——⑬小津安二郎作品地名・人名稿(カラー映画編Ⅱ完)、北海道武蔵女子短期大学紀要、査読無、第42号、2010、pp.1-48
- ③ 中澤千磨夫、痙攣するデジャ・ヴュ——ビデオで読む小津安二郎——⑭小津安二郎作品地名・人名稿(無声映画編Ⅰ)、北海道武蔵女子短期大学紀要、査読無、第43号、2011、pp.1-52
- ④ 中澤千磨夫、痙攣するデジャ・ヴュ——ビデオで読む小津安二郎——⑮小津安二郎作品地名・人名稿(無声映画編Ⅱ完)、北海道武蔵女子短期大学紀要、査読無、第44号、2012、pp.1-135
- ⑤ 中澤千磨夫、小津安二郎のサウスデイズをめざす——江南の春 2012 メモランダム——、プレーメン館、査読有、第10号、2012、pp.161-182
- ⑥ 中澤千磨夫、痙攣するデジャ・ヴュ——ビデオで読む小津安二郎——⑯小津安二郎作品地名・人名稿(戦前・戦後トーキー映画編)、北海道武蔵女子短期大学紀要、査読無、第45号、2013、pp.1-52
- ⑦ 中澤千磨夫、死都上海 2013 (メモランダム)、プレーメン館、査読有、第11号、2013、pp.179-190

[学会発表] (計1件)

- ① 中澤千磨夫、映画に注釈を付けるということ——小津安二郎の場合——、日本社会文学会北海道ブロック例会、北海学園大学、2011・10・1

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

<http://www.musashi-jc.ac.jp/>

5. 研究組織

(1) 研究代表者

中澤千磨夫 (NAKAZAWA CHIMAO)

北海道武蔵女子短期大学・教養学科・教授

研究者番号：10198062

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：